

新病院建設に関する手順と役割について

■ 基本的な流れ



● 基本構想

新病院の事業理念や目的を策定します。この段階で病院の運営に関する基本方針や経営に関する収支計画を立てます。

- (1) 基本方針 ①病院機能や方向性の設定 ②計画スケジュール ③診療圏内需要予測 ④移転先候補・選定
- (2) 経営計画 ①資金繰り対策 ②収支計画等概算費用策定

● 基本計画

基本構想に従い、具体的な計画を落とし込みます。

- (1) 建築計画 ①病床数や延床面積設定 ②設計・建築に関する条件設定 ③部門別構成（各部門との結びつきなど）
- (2) 運営計画 ①人員配置計画 ②運用フロー ③医療機器整備計画 ④医療情報整備計画 ⑤詳細収支計画

※一般的に基本構想、基本計画については、一つにまとめて検討されることが多いです。

● 基本設計

基本計画に従い、基本設計図面を書きます。

- (1) 建築設計 ①設計方針 ②スペースプラン ③ブロックプラン ④動線計画 ⑤諸室構成 ⑥階別構成 ⑦各階平面計画 ⑧敷地利用計画
- (2) 設備設計 ①医療用設備計画 ②空調・衛生・電気等設備計画 ③情報インフラ整備計画

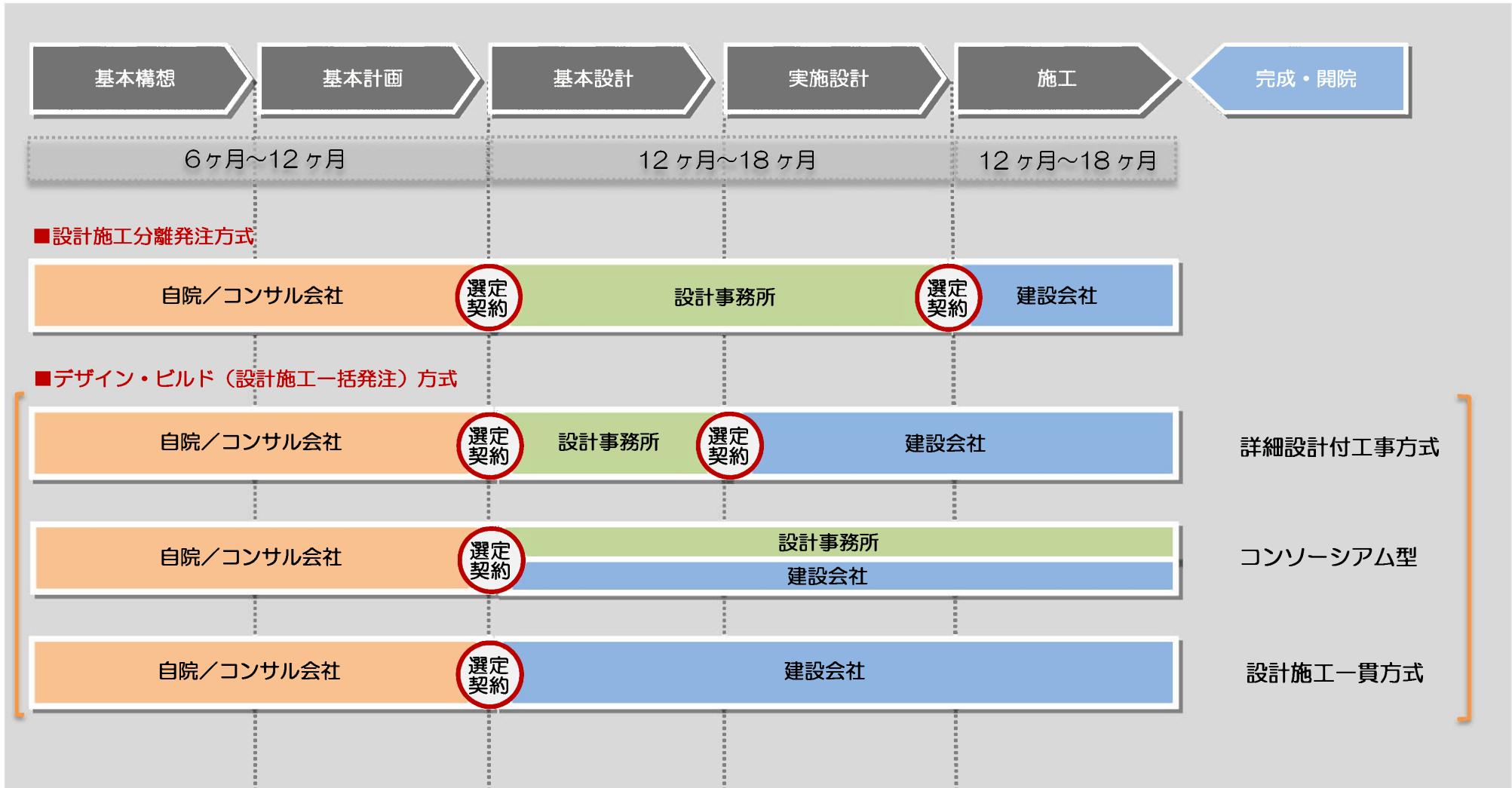
● 実施設計

基本設計に基づき、施工（建物を建設）を行うための設備・空調等の施工図面を書きます。

● 施工

実施設計に基づき、建物を建設します。

■基本的な流れに基づくおおよその工期（構築期間）及び整備手法



- これまで長らく設計施工分離による発注方式が主でしたが、近年、コスト面・工期の短縮化などを図る目的でデザイン・ビルト方式を採用する病院が増えてきましたが、整備手法には一長一短あり、病院の考え方には合わせた整備手法を選択する必要があります。
- また、2005年11月に発覚した構造計算書偽装問題（姉歯事件）により、「建築物の確認検査制度」がより厳しくなり、実施設計後の国土交通省への許認可事項（検査・確認）に時間を要する場合があります。